

緑の相談所だより

第51号

春号 1998. 4. 1発行 編集:旭川市緑の相談所

講座のお知らせ

月日	時	テーマ	内容	講師
4/12	午後1時から3時まで	鉢物の植え替えと 春の園芸作業	鉢物の植え替えと 庭木の定植と剪定	旭川市緑の相談所 相談員 本郷 仁
4/26		盆栽を楽しむ	仕立てと管理	旭川市緑の相談所 相談員 本郷 仁
5/10		観葉植物とラン類の 植え替え	実技指導	旭川市緑の相談所 相談員 本郷 仁
5/24		家庭菜園を楽しむ		旭川市緑の相談所 相談員 佐野 元雄

参加料はいずれも無料

お申し込み・お問い合わせ 旭川市緑の相談所 ☎65-5553

交通の便 旭川電気軌道バス アサヒビル(宮下通り8丁目)前発
82番 緑が丘線(南高行き) 上川神社前下車

☆☆☆ たくさんの皆さまのご参加をお待ちしております。 ☆☆☆

Q アジサイに花を たくさんつけさせるには?



あじさい
Hydrangea macrophylla
var. otaksa

◆花言葉
移り気、自慢家、
あなたは美しいが冷淡だ、
辛抱強い愛情

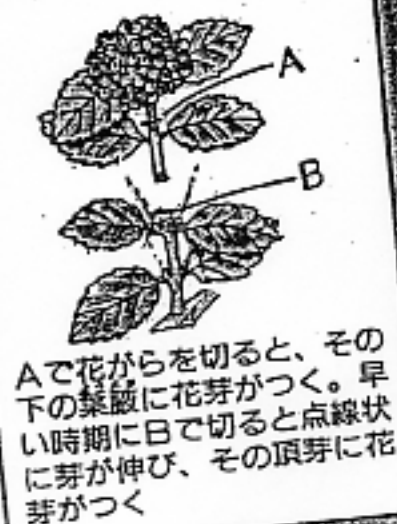
A 花の咲いた枝では花の下のわき芽に花芽ができ、花の咲かない枝では枝の上部に花芽ができるので、株が大きくなったからといって、むやみに剪定すると花芽を切ってしまうことになり、花は咲きません。剪定によって株をコンパクトに仕立て、かつ花を多くつけるためには、花が色あせてきたころ、今年の枝の3~4節目で剪定します。春に、丸く大きな芽を残し、枯れ枝、弱枝を中心に切り取り、有機物の肥料を少量施します。

午後、日陰になる場所を好み、青色種は酸性、赤色種はアルカリ性の土で鮮やかになります。コンクリート^{コン}拵^ボ沿いに植えると、青色種の花が赤色に変化することがあります。

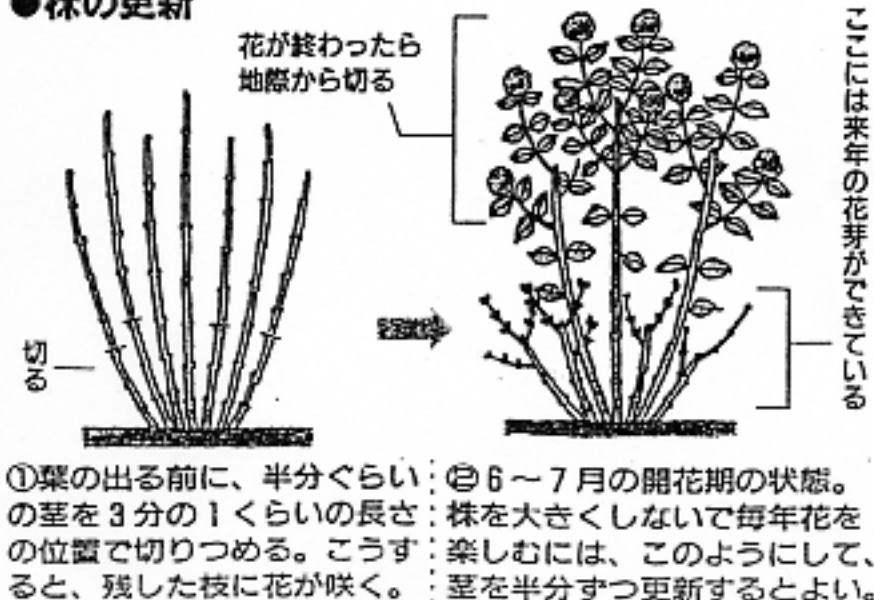
●アジサイのさし木(6月)



●夏季剪定(花後の剪定)



●株の更新



鉢植え果樹のおすすめ

緑を楽しむ鉢物、花を咲かせる鉢物、今度は花と実を觀賞し食べて楽しめる鉢植えの果樹に挑戦してはいかがでしょう。鉢植えであればベランダや狭い庭先でも、また早い秋がきても暖かい室内に持ち込むことができ、今まで北海道の露地では難しいとされる「ビワ」や「ミカン類」等のいくつかの種類も栽培可能になってきます。

ただし鉢植えでもやはり果樹ですので、甘い実を成らせるためには陽当たりの良い場所で育てることが絶対条件です。

○ フドウ

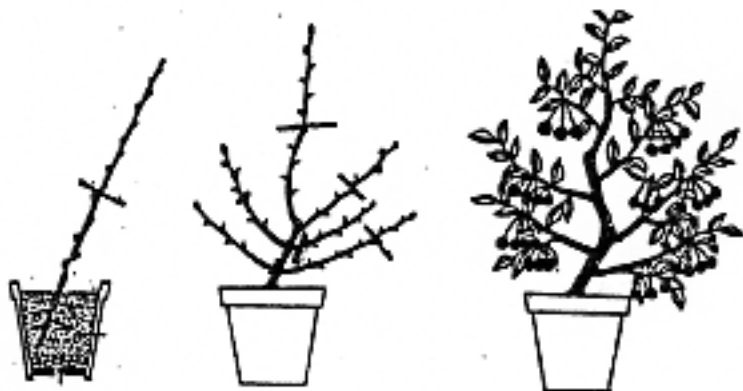
苗を植えてから2年目で結実可能、7号鉢であんどん仕立てにすると樹高1m以内で作れます。

落葉直後剪定、鉢を倒して戸外で越冬できます。



○ オウトウ

接木苗を植えて3~4年目に収穫、7~8号鉢2鉢にそれぞれ異品種を植え、2年目以降枝先を切り詰めながら育てます。戸外で越冬します。



○ リンゴ

矮性台木の接木苗を植えて3年目に開花結実可能、2年目から太めの枝を針金で横向きに伸ばすようにすると花つきがよい、枝先に花が着くので剪定に注意、戸外で越冬可能。



以上の他実生のものでも4年目には実をつけるものもあります。いずれも要点は枝数を制限し、細い枝を除き2~3本の太い枝を育てることです。

四月の園芸作業

- * 露地・花壇・・・夏花壇用の草花の種蒔き。昨年の秋始末の出来なかった枯れ葉などの整理と春咲き球根や宿根草などへの肥料やり。下旬には春花壇の整地をして植え込みの準備をする。
- * 鉢花・・・室内で冬を越した鉢物も陽気の良い日は正午を中心に1～2時間ベランダか玄関先で日光浴と外気浴をさせる。風や強光線にいきなり曝すと日焼けをおこしたり、傷んだりするので注意する。花木類は出来るだけ外気に馴らすようにする。午後は急に温度が下がるので室内へ取り込む。夜間の冷え込みには特に注意する。山野草など地面に並べて冬を過ごさせた鉢物は乾きに注意する。冬囲いの中の鉢物は日中、室や土穴の蓋を開けて外気に馴らす。部屋の温度が日中20℃以上、夜間15℃以上あれば株分け、植え替えができる。
- * 観葉植物・・・鉢花と同じような注意をしながら日光浴、外気浴をする。部屋の温度が日中20℃以上、夜間10℃以上あれば株分け、植え替えの作業が出来る。平均温度が20℃を保てれば挿し芽や挿し木ができるが、挿し木床の湿度を保つ工夫が必要。
- * 洋蘭・・・カトレア、パフィオペデルムの一部、フェレノブシスを除いて次第に花が見られなくなる。室温が最低13℃以上あれば花の来なかった株、花の終わった株で株分けや植え替えが出来るが、新しい芽が成長を始めた頃が適期。植え替え後、二週間以上たって根が動き始めてから本格的な灌水と施肥を始める。まだ外へ出すのは早い時期。日中は外でも早めに取り込む事です。
- * 盆栽・・・冬囲いやムロから出す。落葉樹は芽が動く前の中～下旬に植え替え。リンゴなど実成り物はこの時期の植え替えはしない。針葉樹は下旬から5月中旬までが植え替え、剪定の時期。部屋の中で咲かせたサツキは、花後に植え替えたあと2週間は日光によくあて霜の害を受けない所で養生する。鉢内は乾かし気味に管理し、時々霧水をかける。落葉樹種の休眠枝挿しの挿し木適期です。
- * 庭木・果樹・・・冬囲いの撤外し。雪吊るしの撤去。地面に倒して冬を越したスギ、アオキ、セイヨウシャクナゲなども起こして支柱を立てる。苗木の植え付け適期は中旬から下旬。大がかりな剪定・整枝は上旬が限度です。ブドウなど落葉樹種の休眠枝挿しの適期。果樹の1回目の防除。

五月の園芸作業

- * 露地・花壇・・・春花壇の植え込みは中旬までに、夏花壇用草花の種蒔きはフレーム、ハウス、室内で行うが、種類により発芽温度が異なるので注意が必要。中～下旬、春植え球根類の定植。春咲きの球根類は採種目的以外のものは、球根の力をつけるためにも花がらを摘み取るとこと。このとき、鉋を使うとウイルス病伝染の恐れがあるので手で摘み取る。アヤメ、ハナショウブ、カンゾウ等去年からの枯れ葉は、新芽が余り伸びない内に良く乾燥したときを見計らって焼いてやると、シンクイムシやズイムシの卵、幼虫を殺すことが出来る。
- * 鉢花・・・暖かい日中は努めて戸外に出して日光浴と外気浴をさせるが、徐々に馴らさないと日焼けや体から水分を奪われるために思わぬ障害が起きるので注意が必要です。アザレア、ツバキなど室内で花を咲かせた鉢物は植え替えて外へ出します。桜の咲く頃は殆どの鉢物が植え替え、株分けの適期です。植え替え直後は、水のやり過ぎと、肥料やりはいけません。植え替えをしなかった鉢物には、追肥をする。草花の種蒔きや挿し芽、花木の取り木は中旬から。ヒメリンゴ等実のなるものは開花したら花粉の媒助をします。アブラムシ、カイガラムシ、オンシツコナジラミなどの防除をする。戸外ではヨトウムシやマイマイの食害に注意。戸外で越冬した鉢物は、棚などに並べて管理する。夜間の低温、霜に注意し低温に弱いものは夜間室内に取り込む。花茎などが伸びすぎた鉢物は切り返しをする。
- * 観葉植物・・・暖かい日は努めて戸外へ出し丈夫に育てるようにするが、徐々に馴らさないと傷めるので注意。下旬になると株分け、植え替えの適期にはいる。植え替え後の管理は鉢花に準ずる。挿し木、取り木も下旬から。病虫害の防除も始めます。
- * 洋蘭・・・下旬になれば暖かい日中は戸外に出し、種類により午後の直射日光は避けて管理する。フェレノブシス、パフィオペデルムは強光を避け、湿度を高く保つため室内で管理するとよい。気温の高い日は夕方葉に霧水をかける。夜、適温以下に気温が下がる時は屋内へ取り込む。小温室、ハウスでは日除け、換気などの調節が頻繁になるが手抜きしなすこと。新しいバルブが伸びているものには置き肥、定期的な追肥をする。新芽の動き始めた株は植え替えや株分けの適期。花後で休眠中の株は水を控え目にして、肥料はやらない。
- * 盆栽・・・針葉樹も植え替えは上旬で終わらせる。植え替えをした鉢は乾かし気味に保ち、体全体に霧水を定期的にかける。広葉樹で4月に植え替えを終えている鉢は、中旬以降肥料を与えてよい。カエデ類は芽摘み、実なりものでは開花とともに花粉の媒助。葉が開いた鉢は灌水量を多くする。花物は花の盛りが過ぎたら花殻を摘み取る。新芽が伸びたら目的に応じて芽摘みをする。新芽の出た鉢は晩霜の害に注意する。
- * 庭木・果樹・・・庭木類の移植・定植は上旬に終える。イチイなど針葉樹は中旬が適期。早咲きのツツジ類は花殻摘みをする。新芽の出ない枯れ枝は切り取り焼き捨てる。レンギョウは花後に整枝・選定をする。リンゴ、ナシは開花前の防除をするが、開花中は避ける。花が咲いたら媒助。取り木は中旬から。